

第3学年1組 外国語活動学習指導案

令和4年12月6日（火） 4校時

男子16名 女子17名 計33名

指導者 HRT: 福嶋 仁美

ALT: Christina Higgins

1 単元名 Unit 7 This is for you. カードをおくろう

2 単元の目標

○日本語と英語の音声の違いに気付き、形の言い方や、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 【知識及び技能】

○欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。 【思考力・判断力・表現力等】

○相手に伝わるように工夫しながら、自分の作品を紹介しようとする。 【学びに向かう力、人間性】

3 単元について

○単元観

本単元は、さまざまな形を表す語や、何が欲しいかを尋ねたり答えたりする表現ができるようになる単元である。次いで、それらの語や表現などを使いながら誰かに贈るためのカードを作り、紹介し合う。特に、相手意識・目的意識を大切にする価値ある単元である。本単元には、語や表現に慣れ親しむための多様な活動が設定されている。繰り返し聞いたり言ったりすることを通して児童の自信や意欲を育み、ゴールできる構成となっている。

○児童観

外国語活動に関する本学級の児童の実態は、下記の通りである。(単位：人)

	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	全く思わない
① 外国語活動の学習は好きですか。	27	4	1	0
② 外国語を話すことは得意ですか。	5	15	8	4
③ 外国語は大切だと思いますか。	25	6	1	0

本学級の児童は、外国語の学習に意欲的に取り組んでいることが分かる。話すことに対して苦手意識を持っている児童はいるが、ペア活動などは意欲的に取り組み、ALTの発音を聞きとろうと努力する姿は見られる。また、話すことは苦手だと答えた児童の中でも、短い言葉でリアクションをすることの楽しさを感じている。外国語は大切だと思う理由は、「外国に行ったときに、買い物ができる。」「日本に来た外国の人が困っている時に助けられる。」「外国で仕事をする時に困らない。」など、具体的場面を思い描いている児童が多い。

以上のことから、本単元の活動では、ALTとのコミュニケーションを重ねることで、外国語でコミュニケーションを取ることの楽しさや達成感を感じることに重点を置き、学習を進めていく。

○指導観

指導にあたっては、単元のゴールである「大切な人にグリーティングカードをおくる。」ことを常に意識させ、活動への目的意識や意欲を高める。

単元前半では、日本語と英語の音声の違いに気づき、ゲームや練習を重ねることで発音に、慣れ親しませる。また、簡単な形同士を組み合わせることで、様々な作品ができることに気づき、意欲を高めるとともに、カード作りのための英語表現の必然性を意識する。

前時までには、ALT から色々なグリーティングカードを紹介してもらうことで、外国文化に触れ、自分らしい作品をイメージできるようにする。

本時では、自分がイメージしたカードを作るために、コミュニケーションをとりながら、欲しい形を集めること、また、そのために「clear voice」「gesture」などを特に意識して伝えることを指導する。

単元終末では、児童同士が作品を紹介し合うことで、個性や頑張りを認め合えるようにする。

また、単元を通して、自分の気持ちや考えを伝えるためには、コミュニケーションが重要であることを実感できると確信する。

〔言語活動の設定〕

家族に感謝の気持ちを表すために（目的）、グリーティングカードを贈る場面を設定する（場面）ことで、相手が喜ぶピースを集めるためにコミュニケーションをとろうとする意欲を持つこと（状況）ができ、自分の思いを生き生きと伝えあう主体的な児童の育成につながると考える。

4 取り扱う言語材料

【表現】 What do you want? This is for you. Here you are. Thank you.

【語彙】 色（blue など）、形（triangle など）

5 単元計画（全5時間） 本時4／5

	目標と主な学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	日本語と英語の音声の違いに気付くとともに、欲しいものを表す言い方を知る。	◎	○	
2	形の言い方に慣れ親しむとともに、欲しいものを表す表現を知る。	◎		
3	色や形、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。		◎	
4	欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。【本時】		○	◎
5	相手に伝わるように工夫しながら、自分の作品を紹介しようとする。			◎

※単元のゴール…大切な人にグリーティングカードをおくろう。

6 本時の学習（4／5）

(1) 目標

グリーティングカードを作るために必要な形を、尋ねたり答えたりして、自分の思いを伝え

合うことができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 本時の視点

グリーティングカードを贈りたい相手が喜ぶカードを作ることを目的として、作成に必要な形を集めること、また、求められた形を渡すことの必然性を持って、コミュニケーションをとることができたか検証する。

(3) 展開

過程	児童の活動	支援及び指導上の留意点		備考
時間	学習活動	HRT	ALT	
Warm up⑩	1 Greeting ○あいさつをする。 気分、天気、曜日、日付などを答える。	○楽しく挨拶ができるように進める。	○児童と挨拶を交わし、気分、天気、曜日、日付を尋ねる。	PC 絵カード
	2 Let's chant ○What do you want?	○リズムに乗って、楽しく活動できるように一緒に発音する。	○リズムに乗って、楽しく活動できるように一緒に発音する。	
	3 Small talk ○ALTとchantをする。	○自由にchantを作らせる。	○児童が作ったchantに対応する。	
	4 Practice	○形を表す単語の発音練習を一緒にする。	○発音練習をリードする。	
	5 Today's goal ○本時の課題をつかむ。	○単元のゴールを確認し、本時の課題をつかませる。		
Main act⑪ Main act⑫	Today's goal グリーティングカードを作るためにひつような形をもらったりわたしたりしよう。		PC	
	6 Activity① 〈Let's listen〉 ○欲しい形をやり取りする音声を聞き、誰がどの作品を作ったのかを考えて線で結ぶ。	○Activity①の説明をする。	○ALTが作ったグリーティングカードを紹介する。 ○Let's listenの聞き取りが難しい時は、同じ文章をゆっくり繰り返す。	
	7 Activity② ○形のやり取りをする。	児童同士で、欲しい形をやり取りする。		

Looking back	○お店屋さん役とお客さん役は、途中で交代する。	○ALT と共にデモンストレーションを行い、お店屋さんごっこの要領をつかませるとともに、見通しを持たせる。	○HLT とともにデモンストレーションを行い、児童に見通しを持たせる。 ○コミュニケーションがスムーズにできていない児童に話しかける。	視点 形 カード
	★POINT…eye contact , smile , clear voice			
	A : What do you want? B : Black stars ,please. A : How many? B : One, please. A : Here you are. B : Thank you. A : You are welcome.	① お店屋さんスタイルで、形のやり取りをさせる。 ② 形の英語発音を忘れてたり、自信がなかったりする時は、動きをつけてやり取りをさせる。		
⑦	8 Looking back ○本時の振り返りをする。	○集めた形をペアで見せ合い、感想を言わせる。 ○振り返りシートに記入させる。 ○次時の活動を伝える	○児童の会話を聞きながら、リアクションをする。 ○児童の頑張りを称賛する。 ○一緒に挨拶をする。	

(4) 評価

グリーティングカードを作るために必要な形を尋ねたり答えたりして、自分の思いを伝え合うことができたか。

(5) 板書計画

Unit goal 大切な人にグリーティングカードをおくろう。

Today's goal グリーティングカードを作るためにひつような形をもらったりわたしたりしよう。

形

△ □ ♥ ☆ ○ ◇

なにがほしいですか？
いくつほしいですか？
どうぞ。
どういたしまして。

クリスティーナ先生
のカード

○色の () をください。
一つください。
ありがとうございます。

7 授業考察

(1) 授業の視点

グリーティングカードを贈りたい相手が喜ぶカードを作ることを目的として、作成に必要な形を集めること、また、求められた形を渡すことの必然性を持って、コミュニケーションをとることができたか検証する。

(2) 授業研究より

〈成果〉

- 自分が大切だと思う人に手作りカードを贈るという設定をして活動を組んだことで、必要感を持って取り組むことができた。
- 一人一人の児童がお店屋さんとして受け持つパーツの形や色の振り分けを工夫することで全員に同じ活動量を保証することができた。
- Chant, Small talk, Practice で、ALT とパーツのやり取りの英語表現を練習したことで、自信を持って、Activity②に取り組むことができた。
- Activity②のお店屋さんとお客さんのやり取りを日本語で表記し、英語表現する時のヒントとして活用できた。
- Activity②の活動中、ALT が児童の様子を見ながら、適時アドバイスをしてくれたことで、児童は積極的に活動できた。
- 形の英語表現をする時に、これまでの練習でジェスチャーも併用していたことで、Activity ②で相手に英語表現が上手く伝わらなかった時は、ジェスチャーを使って伝えるという発想ができた。

〈課題〉

- 教師の意図により、Communication point を活動ごとに絞って意識させること。
- 学習活動の流れを、Small talk → Practice ではなく、Practice → Small talk にした方が、活動がしやすかったのではないか。
- 英語表現に自信が持てない時や、忘れた時、ジェスチャー以外にも、ALT に尋ねるという活用に慣れさせる。
- ALT の効果的な活用を考えること。



